vol.111
2023年7月

ばら

福山市民病院広報誌

Fukuyama City Hospital

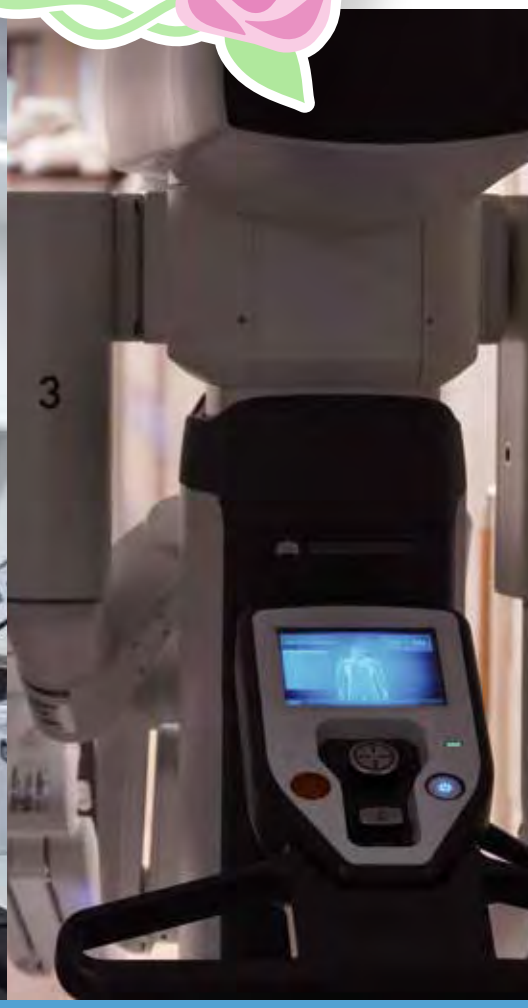
日本医療機能評価機構 認定第JC1055号

特集

新連載

・新生児医療について
・周産期医療について

最新の手術支援ロボットを導入しました。



福山市民病院理念

質の高い安全な医療を通じて「安心と生きる力とやすらぎ」を
地域に提供するとともにこころ豊かな医療人を育成する

地域医療支援病院 | 地域がん診療連携拠点病院 | 救命救急センター | 肝疾患診療連携拠点病院 | 災害拠点病院 | 臨床研修病院
緩和ケア病棟承認施設 | 第二種感染症指定医療機関 | DPC特定病院群 | がんゲノム医療連携病院 | 小児救急医療拠点病院

巻頭言

思いやり・優しさを実感して もらえる療養環境を目指して

副院長
貞森　裕

当院の大きな役割は、質の高い医療を安全に行い、地域に安心と安らぎを提供することです。そのためには、患者さんとご家族に診療を気持ち良く受けていただくことが大切で、院内の療養環境を常に整備し、時に更新していくことが必須となります。病院では各部門が療養環境整備に取り組んでいますが、今回はその推進役を担っている療養環境整備委員会が日々行っている業務を紹介させていただきます。

当院の療養環境整備委員会は、診療部・看護部・医療技術部・経営企画部から選出された21名の委員で構成されています。その主な業務内容は、①全職員の接遇能力の向上、②患者さんからの意見箱への投書対応、③患者アンケート調査と結果解析、④院内のクリーンパトロール、⑤年度ごとの目標標語（スローガン）の作成と周知です。

1．接遇能力の向上

全職員を対象に外部講師による接遇研修会を年1回行っています。特に昨年度は、教育研修委員会と共同し、日本航空の客室乗務員経験者の方を講師として招聘し開催しました。当院緩和ケア科の岡崎医師の尽力によって実現し、接遇のプロフェッショナルである日本航空のコミュニケーション技術やホスピタリティを直接学ぶとともに、現場で培われた知識や考え方、そして実践で使えるノウハウを実地で教えていただきました。

良好なコミュニケーションの基本は、日常で交わされる挨拶です。職員同士や患者さん・ご家族との挨拶をより良くするために、昨年度から全職員を対象に「挨拶に関する意識チェック」のアンケートを開始しました。初回アンケートは、「おはようございます」や「お疲れ様」「ご苦労様」といった挨拶を職員同士や患者さんに一日何回言っていますかといった基本的な質問内容でした。本アンケートに対する職員の関心は高く、当院の業務に関わる全職員1,100名中952名から回答を得ることができ、回答率は86・5％でした。気持ち良い挨拶や労いの言葉が院内全体で増え、職員の気づきと意識改善ができるように、質問内容をブラッシュアップしながら継続的に実施していく方針です。

2．意見箱への投書対応

当院では、外来および各病棟に意見箱を設置しています。患者さんやご家族から当院での診療や療養環境に関する多くのご意見・ご要望や苦情をいただき、その対応を担っています。委託職員を含めた職員の接遇に関する苦情やご指摘に対しては、その都度関係各部門に連絡し、周知と指導を行っています。清掃や設備面での不備に関しては、現場を確認して、できる限り迅速に対応するように努めています。また感謝や労いのお手紙は、各部門に連絡し、モチベーションアップに繋げています。

3．患者アンケート調査と結果解析

入院および外来患者さんに対して、年1回期間を限定してアンケート調査を行ない、その結果を解析して当院の問題点や改善点を検討しています。2018年度までは、患者さんの「主観的な満足度」を評価する調査を行ってきましたが、2019年度からは、患者さんに「より具体的で客観的な経験」を尋ねる患者経験価値調査（Patient eXperience; PX）を導入しました。本調査の利点は、解析結果をもとに具体的な行動目標を掲げやすく、PDCAサイクルを回しやすいことです。今年度からは紙面アンケートとともに、QRコードによるWEBからの回答を導入し、回答数の増加に努める予定です。また、当院独自の質問を設定・追加し、当院の総合評価の更なる向上に繋げていきたいと考えています。

4．クリーンパトロール

入院棟や外来棟の清掃は、委託業者が担っていますが、駐車場・道路周囲を含めた敷地内のごみ拾いは、療養環境整備委員会の委員が4班に分かれて月1回行っています。また外来棟には患者さん・ご家族に知っていただきたい情報をポスターとして掲示していますが、それら掲示板のポスターが整然と分かりやすく配置されているかを月1回チェックしています。そして院内

「ばら」111号もくじ

2 巻頭言

特集

4 新連載
新生児医療について

6 新連載
周産期医療について

7 2023年度 第1回オープンカンファレンス
2023年度
第1回がん診療連携合同カンファレンス

8 三年間の新型コロナウイルス感染症
診療を振り返って

10 いよいよスタートする医師の
労働時間上限規制に向けて
―これまでとこれから―

12 最新鋭の手術支援ロボット
da Vinci Xiが2台導入されました!

14 地域連携だより
地域医療連携実績2022年度

連載

16 第50回 歯っと思ったこと

17 第21回
認知症ケアチームの気になる話

18 第6回 小児科ミニコラム

21 ニュース

22 ひまわり

23 がん患者サロン「おしゃべり会」/
アピアランスケア相談会のご案内
外来診療担当表
管理者室より

24 南玄関及び一部診察室の
場所が変わります

[表紙写真について]
手術支援ロボットda Vinci Xiの写真です。

に展示してある絵画や銅像の定期的なチェックと管理も行っています。

5. 年度ごとの目標標語(スローガン)の作成と周知

年度始めに療養環境整備委員会としての目標標語を作成し、ラミネートにして各部門に配布し、全職員に周知しています。より良き療養環境を達成するためのメッセージや方向性を、そしてコロナ禍ではエールの気持ちも込めて、多くの意見や目標標語を委員会で出し合って、しっかりと討議して作成しています。2016年度からの年度目標を列記します。職員の心をとらえ、療養環境整備への思いをしっかりと伝えるために、ストレートな表現から文学的あるいはキャッチーなフレーズまでさまざまに工夫してきました。

2016年度:
思いやり・優しさを実感してもらえる療養環境を目指して

2017年度:
やさしさ、ここちよさ、ナンバーワンをめざして

2018年度:
やさしさ・思いやり・ぬくもりの1UPをめざして

2019年度:
令和の目くばり・気くばり・心くばり

2020年度:
今こそスマイルアップ~いつも笑顔で真心こめて~

2021年度:
コロナ禍でも笑顔広がる療養の輪

2022年度:
挨拶から始まる療養の和

そして今年度の目標は、「ここちよく感じるあいさつは、皆が使う愛/合言葉~先輩・上司こそ気持ちよいあいさつを~」に決定し、6月中旬にラミネートにして各部門に配布しました。例年よりも長いフレーズになりましたが、多くの職員に良い標語と感じてもらえたようです。

6. 今後の果たすべき役割

今後は、ICTを導入・活用して、医療業務を変革し、療養環境をさらに改善することが求められます。具体的には、スマートフォンや呼び出し端末等による外来患者さんの呼び出しシステム導入の検討やデジタル化による外来待ち時間の短縮などです。

療養環境を整備し続けていくために、設備とシステムを常にチェックし、時に更新するとともに、全職員の接遇能力の向上と意識改革を継続的に行ってまいります。今後も療養環境をより良く整備し、質の高い医療を安全に提供してまいりますので、引き続いてのご支援・ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

特集
新連載

新生児医療について

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児急性疾患学講座
教授 鷲尾 洋介

皆さま初めまして、岡山大学小児急性疾患学講座に所属している鷲尾と申します。小児科医で専門は新生児医学です。2020年に現職に就任してから現在まで、福山市民病院への周産期センターの設置を目指して広島県、福山市と連携を取りながら福山市民病院で活動させていただいております。

周産期という言葉は聞きなれない方も多いと思いますが、妊娠22週から生後７日未満までの期間を指します。周産期医療はこの期間の母体、胎児、新生児を対象にした総合的な医療です。

周産期センターでは産婦人科の医師によって母体の医療が行われ、小児科／新生児科の医師によって新生児の医療が行われます。産科と小児科／新生児科の密な連携と協力によってさまざまな合併症を持つ妊婦さん、生まれてくる赤ちゃんに対する医療を滞りなく行なっていく体制をとります。産科母性部門にはMFICU（母体胎児集中治療室）と産科病棟があり、新生児部門にはNICU（新生児集中治療室）とGCU（growing care unit）があります。NICUで重症な合併症を持つ新生児の診療を行い、GCUで状態が安定した新生児の経過観察を行うことが多いです。新生児に対する医療は当然、生後7日未満に限定されるものではなく、赤ちゃんが生後早期のしんどい時期を乗り越えて、家に帰ってご家族と一緒に過ごせるようになるまでに必要な医療を長期間に渡って行う必要があります。

周産期センター

産科・母性部門	新生児部門
MFICU（母体胎児集中治療室） 産科病棟	NICU（新生児集中治療室） GCU（growing care unit）

また、新生児は“出生時より27生日（生後4週まで）を新生児期と呼び、この期間にある乳児を新生児と呼ぶ”と定義されています。さらに日齢6までを早期新生児期、それ以降を後期新生児期と呼びます。新生児の分類として出生体重での分類、在胎週数での分類があります。出生体重が2,500g未満の児を低出生体重児、1,500g未満の児を極低出生体重児、1,000g未満の子を超低出生体重児と定義されています。また、在胎週数36週未満で出生した児を早産児、37週～42週未満で出生した児を正期産児、42週以降で出生した児を過期産児と呼びます。

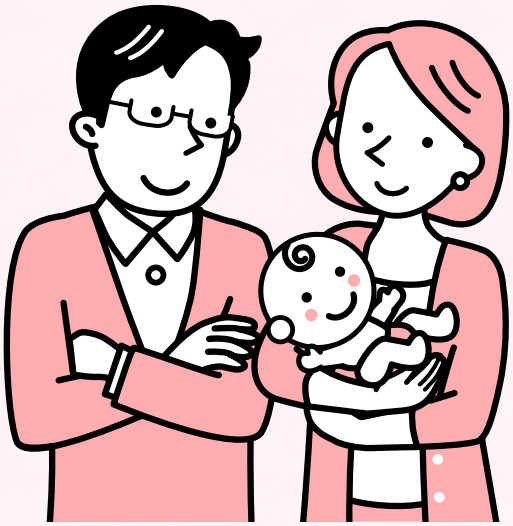
新生児は医学的な特徴として小さくて脆弱であり、出生前の胎内の環境から胎外の環境へ適応する際にさまざまな問題に直面します。出生前は自力で呼吸する必要が無く（胎盤によるガス交換）、栄養補給や排便の必要性もなく、外敵から身を守る必要が無く（胎内環境は無菌環境）、体温調節も行う必要がありませんが、出生後は全て自力で行なっていく必要があります。子宮外の環境への適応がうまくいかない場合は入院して医療を受ける必要性が生じます。

具体的にどのような赤ちゃんがNICUに入院することになるかというと、

- **妊娠37週未満の早産で出生した早産児や、2,500g未満で出生した低出生体重児が母体の外の世界に適応して生活できるようになるまで全身管理を行います。**
- **心臓や肺、消化管など各臓器の問題に加えて染色体異常等の先天的な疾患を持って生まれてきた新生児が入院します。出生後に手術が必要であったり、内科的な全身管理が必要であったり、家に帰る際に医療的なケアが必要であったりとさまざまなサポートを必要とします。**
- **他には出生時に母体の合併症とそれに伴う胎児の状態により強いストレスがかかって生まれてきた新生児が重症な新生児仮死を発症する場合があります。新生児仮死とは出生時の呼吸循環不全を特徴とする症候群で、後遺症を抑え生存を目指すために全身管理が必要となります。人工呼吸管理や循環管理、低体温療法等を行う可能性があります。**

さまざまな病気を持って生まれてきた赤ちゃんをしっかりと治療して成長を見守り、ご家族と一緒に過ごせる時期に向けて滞りなく医療を行なっていくのが新生児医療になります。今後、福山市民病院に周産期センターが設置された際には産科の先生方や周辺の病院と協力しながら福山地区の周産期医療を支えていくために尽力して参ります。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



特集
新連載

周産期医療について その1

産婦人科 科長　早田　桂

「周産期」とは、妊娠22週から出生後7日未満までの期間をいい、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性が高くなる期間を指します。周産期を含めた前後の期間における医療は、突発的な緊急事態に備えて産科・小児科双方からの一貫した総合的な体制が必要であることから、特に「周産期医療」と表現されています。

では周産期医療を担う施設は何処でしょうか。厚生労働省「人口動態統計(確定数)」(令和３年)によると、出生場所に関して、昭和 25 年には「自宅・その他」で95.4％が出生していましたが、昭和45 年には 3.9％となり、代わりに「病院・診療所」が 85.4％、「助産所」が10.6％と増えています。さらに令和３年には「自宅、その他」は 0.2％となり、「病院・診療所」が99.3％、「助産所」が 0.5％と推移しています。ですから何処を受診すれば周産期医療が受けられるではなく、分娩を取り扱う全ての医療施設が周産期医療を担っていることになります(図１)。ただしその中には、一般的にローリスクと言われる妊婦さんの出産を取り扱う一般病院や診療所、助産所から、合併症妊娠など高度な医療行為を必要とするいわゆるハイリスク妊婦さんでは分娩施設が同じというわけにはいきません。そのため、産科医師や新生児担当医師をはじめ助産師、看護師等の確保を図り、高度な周産期医療を提供する周産期母子医療センターが全国各地に整備されています。

周産期母子医療センターには、総合周産期母子医療センターと地域周産期母子医療センターがあります。総合周産期母子医療センターとは、母体・胎児集中治療管理室(MFICU)を含む産科病棟及び新生児集中治療管理室(NICU)を備えた医療機関です。常時、母体・新生児搬送受入体制を有し、母体の救命救急への対応、ハイリスク妊娠に対する医療、高度な新生児医療等を担っています。

一方、地域周産期母子医療センターとは、産科・小児科(新生児)を備え、周産期に係る比較的高度な医療行為を常時担う医療機関です。24時間体制での周産期救急医療(緊急帝王切開術、その他の緊急手術を含む。)に対応することを目標としています。これらの周産期母子医療センターと、正常分娩等を扱う分娩取扱機関、その他関係機関の役割分担・連携により、周産期医療体制が構築されています。現在広島県下の総合周産期母子医療センターは、県立広島病院と広島市立広島市民病院の2施設，地域周産期母子医療センターは8施設ありますが、福山市では独立行政法人国立病院機構福山医療センター(NICU12床、GCU12床)がその役割を担っております。福山市民病院は2024年度より新生児科の常勤医を確保して母体搬送の受入れを拡大し、2026年度には地域周産期母子医療センターとなる計画が進んでいます。

次回は、周産期医療を取り巻く現状について解説します。

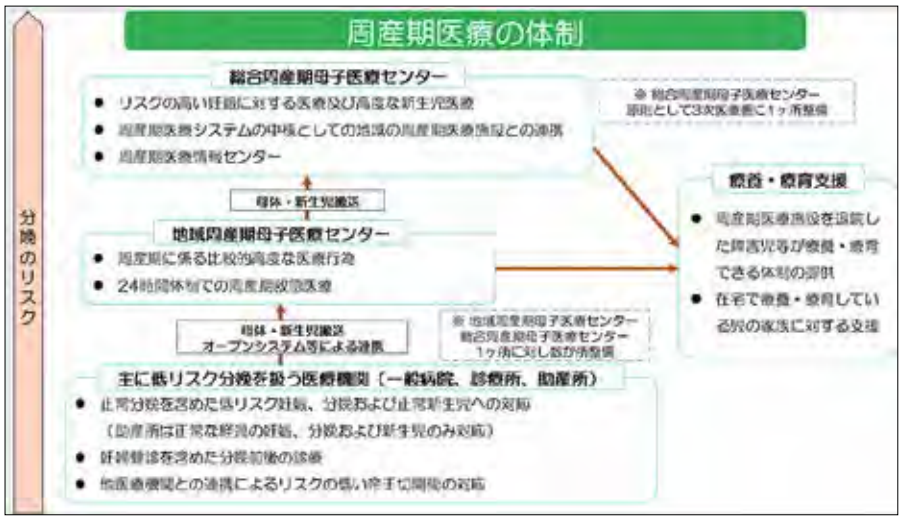


図１

2023年度 第1回オープンカンファレンス

スキルミクス型チームで支援するsustainableな周術期管理
―術後早期のDREAM達成を目指して―

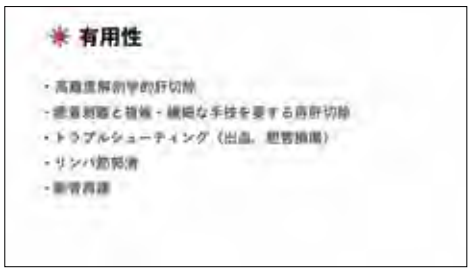
講　師：済生会横浜市東部病院 患者支援センター長／栄養部部長 谷口 英喜 先生
日　時：2023年4月27日（木）18：00～

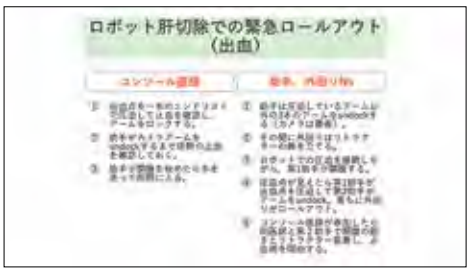
2023年度 第1回がん診療連携合同カンファレンス

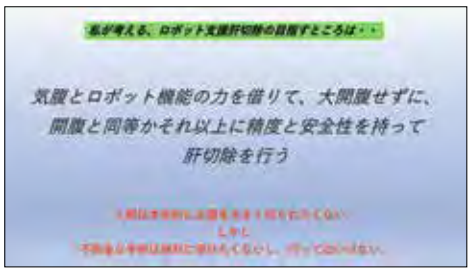
ダビンチを用いたロボット肝切除：
環境整備、手術手技、成績、将来展望

講　師：藤田医科大学 消化器外科学講座／ばんたね病院 加藤 悠太郎 先生
日　時：2023年5月25日（木）18：00～

ロボット肝切除は最近2-3年で普及が進み始めた領域で、高自由度多関節鉗子、手ブレの排除、安定した高精細3D画像などのロボット機能を活かすことで、とくに技術的に高難度で複雑な術式で腹腔鏡手術を凌駕する可能性がある。一方、肝切除ではロボットといえども動作制限を感じるため、患者体位、ポート配置、鉗子操作の方向やポート選択が重要である。また出血リスクは他臓器よりも高いため、緊急ロールアウト・開腹移行の準備と定期トレーニングはしっかり行うことが必要である。







三年間の新型コロナウイルス感染症診療を振り返って

診療部次長 内科統括科長　**髙田 一郎**

福山市民病院の壁に揺れる白い日差しは、新型コロナウイルス感染症の闘いを三年間にわたって照らし続けてきました。この病院の廊下を歩く職員たちは、不屈の闘志と情熱を胸に秘め、知識と技術を武器に闘ってきました。私たちは決して立ち止まることなく、何度も何度も立ち上がり、未知の感染症との戦いを続けてきました。当院の三年間の新型コロナウイルス感染症診療を振り返ります。

その幕開けは、まだ人々が新しい年号で迎えた新年を無邪気に寿(ことほ)いでいた頃でした。多くの報道機関が、ある国のある地方で流行している未知のウイルス感染症と小さく扱っていたころ、当院が第二種感染症指定医療機関であることを自覚していた複数の職員が水面下で準備を始めました。やがてその感染症は「新型コロナウイルス感染症」という名前で連日大きく報道されるようになりました。それは目に見えぬ敵であり、多くの人々を恐怖に陥れましたが、私たちは冷静に2月中旬に内科病棟の一つを即応病棟とする体制を整えました。この病気の全貌が全く掴めていないにもかかわらず、看護師たちは自らをこの戦いの中に投じるべく連日訓練を重ねました。

3月下旬に最初の陽性患者さんが入院しましたが、当

院がこの圏域における唯一の受け入れ医療機関であったため、あっという間に病床は足りなくなりました。さらに著名人がこの感染症で永眠したニュースが日本国内に大きな衝撃を与えた週の後半に、当院にも初めて重症患者さんが入院しました。当時は有効な治療薬がなかったため、国内の複数の感染症専門医療機関に意見を聞きましたが、どの医療機関も手探りの状態で、結局私たち自身で治療法を判断するしかありませんでした。そして呼吸状態が悪化した患者さんに人工呼吸を行うため、当院で初めてこの感染症の患者さんに気管内挿管をする救急科医師と介助する看護師の背中を見つめながら、彼らに対する言葉に表せない感謝の気持ちとともに、内科医師として無力感を感じずにはいられませんでした(その患者さんは無事社会復帰されました)。

新型コロナウイルス感染症診療は、私たちにとってはこれまでとは違った形で患者さんの命と向き合うことでもありました。看護師は死にゆく患者たちの最期に立ち会い、家族の代わりにその手を握りしめ、そして最期の瞬間まで全力を尽くしました。皆の心には無力感と悲しみが交錯し続けましたが、それでも彼らは決して立ち止まることはありませんでした。

三年間の長い戦いの中で、福山市民病院は多くの困難に立ち向かい、そのたびに学び、進化し続けました。この間あらゆる部署の職員にさまざまなお願いごとをしましたが、一度として断られたことがありません。この「地域医療の最後の砦」に勤務する職員たちに、未曾有の感染症に背中を向けることなく立ち向かっていく強烈なプロフェッショナル意識を感じました。皆の努力の結晶が、どれだけ数多くの命を救ったことでしょうか。

そして、三年間の長い戦いの末に、福山市民病院は新型コロナウイルス感染症に打ち勝ちました。感染者数は減少し、病床は解放されました。

福山市民病院の三年間の新型コロナウイルス感染症診療を振り返りながら、ともに闘ってきた職員の昼夜を問わない努力に心から敬意を表します。彼らの勇気と決断力、そして類まれな実行力は、この闘いが終わった後もこの病院の中で生き続けます。そして我々のあとに続くものはこの経験から学び、未来の困難に立ち向かう勇気を持ち続けることでしょう。

最後に福山市民病院ともに闘ってくださった全ての地域医療機関の皆さまと、ご迷惑をおかけした多くの患者さん・ご家族、そして私たちの家族に感謝します。

いよいよスタートする 医師の労働時間上限規制に向けて ―これまでとこれから―

診療部参与
喜岡幸央

これまでにも医師の働き方改革につきましては、2018年7月の〝ばら81号〟をはじめとし、折につけ寄稿してまいりましたが、いよいよ2024年4月には医師労働時間の上限規制が設けられます。そこでこれまで当院が医師の働き方改革について行ってきたことを振り返り、そしてこれから歩むべき道について触れたいと思います。

2014年10月、医療法の改正（第6次改正）により病院の管理者は、医療従事者の勤務環境の改善、医療従事者の確保に資する措置を講ずるため、働き方・休み方改善、職員の健康支援、働きやすさ確保のための環境整備、そして働きがいの向上に努めなければ ならないとされ、都道府県に医療勤務環境改善支援センターが設けられ、マネジメント・システムを整備し、円滑実施のためのガイドラインが策定されました。しかし、その効果は十分には発揮されませんでした。

2016年9月、高齢化、人口減少社会により、今後労働力不足が見込まれ、勧告されていた長時間労働の是正、非正規・正規社員の格差の是正、労働人口不足の解消を目指し、内閣官房に働き方改革実現推進室が設置され、2017年3月、働き方改革実行計画が示されました。職種の中で時間外労働が最も多い医師に関しては、時間外労働の上限規制を考慮するため医師の働き方改革に関する検討会が設けられ、2018年2月、次に示す医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組が公表されました。①医師の労働時間管理の適正化、②36協定等の自己点検、③健康管理の面からの既存の産業保健の仕組み（労働安全衛生法）の活用、④タスクシフトの推進、⑤女性医師等に対する支援、⑥医療機関の状況に応じた医師の労働時間短縮に向けた取組の6項目です。

2018年7月、働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律が公布されました。私たちに関連するものとしては、医師を除く時間外労働の上限規制、年次有給休暇の確実な取得、産業医・産業保健機能の強化、勤務間インターバル制度の導入促進、そして正社員と非正規雇用労働者との間の不合理な待遇差別の禁止などがあります。2019年3月、31ページにわたる医師の働き方改革に関する検討会報告書が発表されました。その後医師の働き方改革の推進に関する検討会へと引き継がれ、2020年12月に中間とりまとめが公表されました。2022年3月の第17回検討会まで開催され、医師労働時間短縮計画、医療機関勤務環境評価センター、追加的健康確保措置等さまざまな議論がなされ、皆さんがよく目にする（図1）が示されました。その間に2020年の診療報酬改定では、地域医療体制確保加算などに働き方改革が組み込まれ、2021年医療法改正（第9次）でも医師の働き方改革が触れられました。

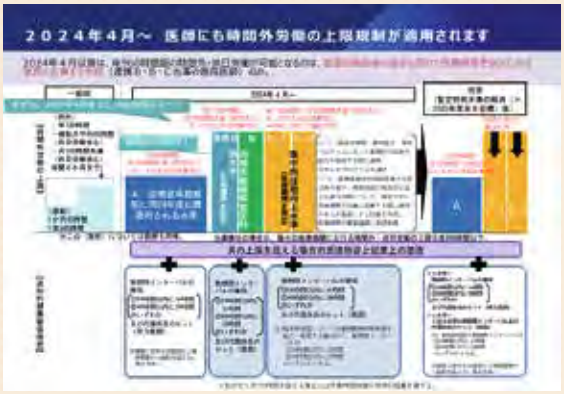


図1

こうした経緯で医師の働き方改革は進んでおり、2024年4月には医師労働時間の上限規制がいよいよスタートします。（図2）

図2

このような流れの中で当院は、次の取組を行ってまいりました。

2018年4月、福山市民病院医師の働き方改革に関する検討会を設けました。2年間で始められたことは、ICカード導入による在院時間管理、どこでも時間外勤務入力可能なTimePro-NX Webソフト導入、36協定の変更（医師の上限設定1500時間）、増員したドクターアシスタントへのタスクシフト、看護師の特定行為研修の推進、委員会・カンファレンスなどの勤務時間内開催の推進、患者・家族説明の原則勤務時間内施行、週休日、祭日などの分担勤務の推奨、そして選択できる働き方（時短勤務など）などです。

2020年4月、医療勤務環境改善総合プランを策定し、プランの実行を担う医療勤務環境改善委員会を設け、医師の働き方改革に関する検討会業務は引き継がれました。

時間外業務の基準、自己研鑽や勤務間インターバルについて、毎年4月医師へ周知を行い、全職員を対象とした働き方改革の進め方の院内カンファレンスも開催しました。

看護部では、夜勤回数の減少、勤務形態の多様化、特定行為研修や看護補助者の活用によるタスクシフトなどを検討し進めております。医療技術部では、宿日直体制からシフト制への移行が検討されております。診療部では、2022年7月より部会を毎月開催し、宿日直許可取得を目指しデータ収集、検討を行い、労働基準監督署へも3度足を運び、2023年3月ついに現行の診療部宿日直7ラインと看護部師長宿日直、臨床工学科宿日直も許可を得ることができました。また、追加的健康確保措置（面接指導）の面では、長時間労働者の面接指導実施医師の資格を、産業医、院長、副院長、診療部参与が取得しました。（図3）4月からは、Google formsを利用した自己研鑽時間の管理、他の医療機関での労働時間の管理も開始しました。また、開院以来の医師当直日誌も電子カルテ内の管理日誌を充実させることで廃止できました。

図3

今後、勤務間インターバルの管理や代償休息付与状況管理も進める予定です。現在、来年4月の医師労働時間上限規制開始に向け、医師労働時間短縮計画の作成、医療機関勤務環境評価センターの受審、県へのB水準の届け出の準備を進めております。（図4）

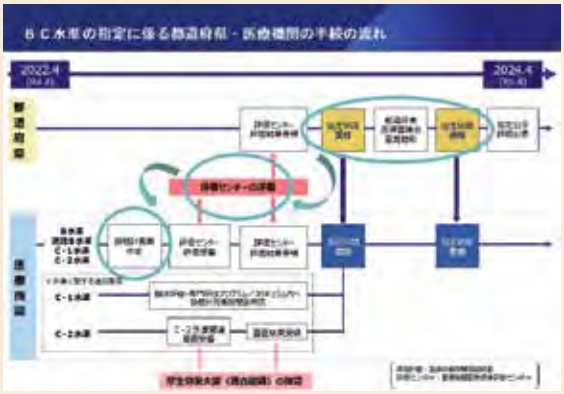


図4

最後に、本来病院のあるべき姿は、患者さんに愛される病院、働く人達に愛される病院、そして安定した経営が持続できる病院です。医師のみならず医療者の働き方改革の推進は、働く人に愛される病院を目指すための一役を担う方策です。働きがいとは、ワークライフバランスがとれ、よい環境でやりたい仕事を行い、良い評価、納得できる収入を得ることです。働きがいのある職場づくりを働く人全員で考えましょう。皆さんのご意見をお待ちしております。

最新鋭の手術支援ロボット
da Vinci Xiが2台導入されました!

ロボット手術運営会議

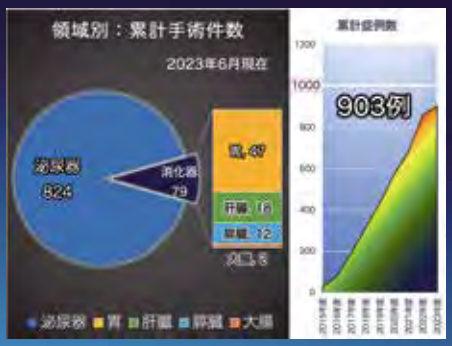
当院ではロボット手術を積極的に行ってきました。泌尿器科で積み重ねた豊富な実績に加え、近年では外科の各領域で導入が進んでいます。さらに、今秋には呼吸器外科も開始予定で、ロボット手術件数が著しく増加しています。

2014年に導入した現行機種のdaVinciSiは、その高い機能性で数多くの患者さんに手術を届けてきました。しかし、増加し続けるニーズと、より高度な手術を安全に患者さんに届けるべく、機種更新と増台が必要になりました。現場の医師、看護師、臨床工学技士と、事務・病院幹部が一体となって方針を協議し、およそ1年にわたる討議を経て今回の導入に至りました。

一度に2台を納品することは、業者にとっても滅多にないことで、搬入経路や耐荷重性の確認、機器作動確認などに入念な事前準備が必要でした。休日返上でサポートしてくれたメンバーの活躍もあり無事に納品が行われ、翌日にはメディアに向けて本事業の意義についての会見と、実機内覧が行われました。

機器が入っただけでは意味がありません。術者や助手は資格の更新と実習が必要ですし、すべての職種が最新機種を理解し、安全に作動のためのトレーニングが重要です。さらに、機能を最大限に引き出すための各手術チームでのシミュレーションを行います。安全な最先端手術の提供を目指す当院では、このような慎重な姿勢を大切にし、およそ2ヶ月間の訓練期間を経て、8月にこのXiを稼働する予定です。

文責　香川哲也



新たに導入されたda Vinci Xi

納品時のサポートメンバー（ロボット手術運営会議）

記者会見
高倉事業管理者・室院長ら

内覧会での機器説明・実演
黒瀬泌尿器科診療統括科長

新たに納品されたXi2台と
現行機種Si（右端）

地域連携だより

福山市民病院

地域医療連携実績 2022年度

平素から、患者さんを中心とした医療連携にご協力いただきありがとうございます。
速やかな連携に努めてまいりますので、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

1. 紹介率・逆紹介率

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
紹介率	76.3%	75.1%	77.2%	81.5%
逆紹介率	146.8%	158.6%	160.4%	158.7%
初診患者数	15,245	13,462	13,578	13,751
紹介患者数	11,631	10,106	10,478	11,201
逆紹介患者数	22,383	21,352	21,779	21,821

2. 紹介登録件数

福山市中央部

	医療機関名	紹介数
1	うだ胃腸科内科外科クリニック	332
2	脳神経センター大田記念病院	147
3	高橋眼科	141
4	福山医療センター	112
5	福山夜間小児診療所	107
6	山陽病院（福山市）	97
7	黒瀬クリニック	94
8	城北診療所	84
9	たかはし小児科	73
10	木村歯科診療所	67

福山市東部

	医療機関名	紹介数
1	日本鋼管福山病院	315
2	井上病院	245
3	福山第一病院	215
4	福山リハビリテーション病院	201
5	森近内科	162
6	永原内科クリニック	157
7	コム・クリニック佐藤	132
8	上田循環器科内科	131
9	なかよし小児科	127
10	ゆう耳鼻いんこう科クリニック	122

福山市西部

	医療機関名	紹介数
1	西福山病院	35
2	はしもとじんクリニック	29
3	橘髙クリニック	12
4	下永病院	7
4	宮地クリニック（福山市）	7
4	錦織眼科医院	7
7	佐藤脳神経外科	6
7	和田胃腸科・皮膚科クリニック	6
9	ひとみ眼科	5
10	平木耳鼻咽喉科医院	4

福山市南部

	医療機関名	紹介数
1	沼隈病院	72
2	小林医院	41
3	藤井病院	35
4	かたおか内科クリニック	27
5	小林外科胃腸科	18
5	福田内科小児科	18
7	山陽ぬまくま腎クリニック	17
8	友野歯科クリニック	15
9	さいきじんクリニック	13
10	岡田クリニック	12
10	福山友愛病院	12

福山市北部

	医療機関名	紹介数
1	いしいクリニック	631
2	中国中央病院	419
3	寺岡記念病院	253
4	小畠病院	241
5	まが医院	232
6	みはら眼科	167
7	よしたかクリニック	140
7	井口産婦人科小児科医院	140
9	岡本耳鼻咽喉科医院	138
10	いまだ内科医院	124

府中市・神石高原町

	医療機関名	紹介数
1	府中市民病院	295
2	なかはまハートクリニック	209
3	神石高原町立病院	160
4	佐野内科医院	52
5	ひがき眼科	36
6	なんば医院	29
7	府中北市民病院	27
8	ほそや内科クリニック	24
9	藤岡歯科	16
9	府中中央内科病院	16

井原市

	医療機関名	紹介数
1	井原第一クリニック	300
2	井原市立井原市民病院	219
3	小田病院	92
4	ほそや医院	81
5	平木眼科医院	64
6	山成医院	45
7	青木内科	36
7	前谷内科クリニック	36
9	タカヤクリニック	30
10	菅病院	26

笠岡市

	医療機関名	紹介数
1	笠岡第一病院	168
2	笠岡市立市民病院	81
3	さとう消化器肛門外科	53
4	はらだ眼科	40
5	村上脳神経外科内科	35
6	たなか歯科	32
7	さなだ耳鼻咽喉科医院	26
8	武田耳鼻咽喉科医院	17
9	西井ウイメンズクリニック	16
10	塚本歯科	14

※地域医療連携課にご紹介いただいた件数です。

3. 開放病床の運営状況

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
利用患者数	140	157	109	126
利用登録医数	38	42	38	35
利用日数	1,207	1,268	1,097	1,450
共同指導回数	104	70	85	56
病床利用率（%）	66.1	69.5	60.1	79.5

5. 患者相談の状況

専任のMSW、看護師などが患者さんの相談に対応しています。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
医療相談	2,037	1,712	2,552	3,004
医療費相談	593	528	944	1,190
制度・その他	1,444	1,184	1,608	1,814
がん相談	2,714	2,426	2,378	2,356
肝疾患相談	961	797	898	706
合計	5,712	4,935	5,828	6,066

7. 入院支援

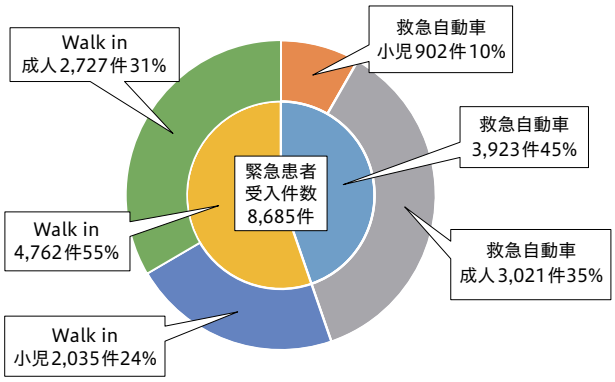
入院予定の患者さんに不安や疑問の解消のため入院前面談を通して支援をしています。

内科、腫瘍内科、循環器内科、脳神経内科、外科、呼吸器外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科の８科の外来患者さん(成人）が対象です。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
支援数（人）	3,282	3,735	4,031	3,197

9. 救急患者受入状況

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
救急自動車	3,738	3,487	3,548	3,923
うち、小児	583	526	657	902
うち、成人	3,155	2,961	2,891	3,021
Walk in	5,050	4,245	4,388	4,762
うち、小児	1,599	1,438	1,735	2,035
うち、成人	3,451	2,807	2,653	2,727
合計	8,788	7,732	7,936	8,685
うち、小児	2,182	1,964	2,392	2,937
うち、成人	6,606	5,768	5,544	5,748



4. 医療機器の共同利用実施状況

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
CT	819	755	852	858
MRI	237	180	229	235
RI	391	402	499	522
PET-CT	334	333	397	390

6. 退院患者支援（転帰先）

退院支援看護師が、入院時から早期の退院・転院に向けた支援・調整に取り組んでいます。また、外来支援により、外来通院中の患者さんの療養の場の相談・調整を行っています。

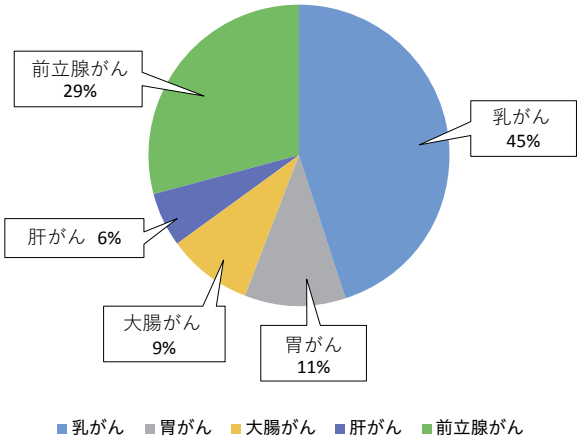
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
退院支援	2,683	2,678	2,214	2,413
自宅退院	920	987	666	904
転院（病院）	1,532	1,455	1,321	1,243
転院（診療所）	49	59	43	36
施設※1	75	75	95	114
その他※2	107	102	89	116
外来支援	1,503	1,553	1,611	2,032
合計	4,186	4,231	3,825	4,445

※1：介護施設、社会福祉施設　※2：支援中止、死亡

8. 地域連携クリティカルパス登録状況

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
がん	219	190	233	267
乳がん	82	75	103	119
肺がん	0	0	0	0
胃がん	41	27	23	30
大腸がん	11	5	24	25
肝がん	0	1	5	15
前立腺がん	85	82	78	78
脳卒中	103	103	93	66
大腿骨	52	52	55	93

がん地域連携クリティカルパス登録割合
（2022年度）



第50回 歯科口腔外科

歯科衛生士 瀬尾 桃子

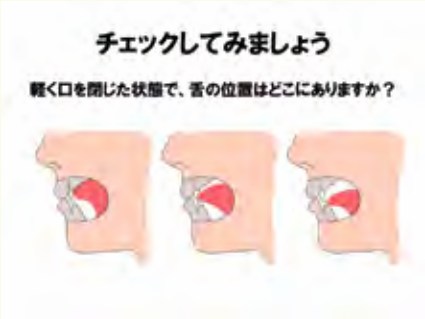
歯っと思ったこと

「口呼吸になっていませんか？」

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は5類感染症になり、感染対策は個人・事業主の判断が基本となりました。マスク着用に関しては、重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、医療機関・高齢者施設などを訪問する時や、通勤ラッシュ時などの混雑した電車・バスに乗車する時などはマスクを着用するよう厚生労働省により定められています。

マスク着用は、飛沫感染や接触感染予防に大変有効な手段です。現在でも、一日の大半をマスクとともに過ごされている方も多いのではないでしょうか。一方で、長時間のマスク着用による負の影響も明らかになりつつあります。例えば、マスク着用下では無意識に口が開き、口呼吸となりがちです。そのため、口腔内の乾燥や唾液分泌量の減少、口腔内細菌叢の変化が生じます。また、長時間のマスク着用により口周りの筋肉を動かす機会が減った事で、筋肉の強張りやたるみが出現し、やがては口腔機能の低下を助長してしまうことが懸念されています。さらにこの口呼吸によって、舌の筋力が衰えるので舌を動かしづらくなり、舌苔（舌に付着する白い苔状のもの）がつきやすくなります。歯周病を引き起こす歯垢も、口呼吸だとつきやすくなります。この舌苔や歯垢は、口臭の原因となります。その他にも、うつ病・気管支喘息・糖尿病など「口呼吸は万病のもと」といっていいほど、至るところに影響を及ぼすといわれています。

そこで自分が口呼吸かどうか、チェックしてみましょう。舌を上あごに当てて、「コン・コン」と音を出してみてください。この時に舌先が当たる位置が、口を閉じた状態での舌のあるべき位置です。下のイラストの中では、左のみが正解となります。一方で、口呼吸の人は舌の筋肉が衰えていますから、舌が下がって舌先が上下の前歯の裏側や歯茎、上下の歯と歯の間についているはずです。真ん中と右のイラストは正しい位置より下にあるので、低位舌といいます。



口呼吸を本来の鼻呼吸に戻すには、舌の筋肉をつけることが大切です。そこで、長期間のマスク生活から口腔機能が低下するのを防ぐため、普段から意識的に口を動かすことをお勧めします。今回ご紹介するのは、マスクのまま簡単にできる“マスク口体操”です。“マスク口体操”は、3つの異なる連続した口の動きを組み合わせることにより、口腔機能のポイントとなる「口唇・前頸部・舌・頬部」の負荷運動を再現できます。そして、効率的かつシンプルで、人目を気にせず場所や時間を選ばずに実施できます。必ずしも回数や目標を設定して取り組むものではありませんが、一つひとつの動きをしっかり意識し、可動域を大きくイメージするとより効果的です。

〈口腔周囲筋のトレーニング〉
参考：デンタルハイジーンV vol.41 No6 2021.6 P592 図3マスク口体操

「目は口ほどに物を言う」とはいいますが、マスクは相手の表情が見えづらく、声も聞こえにくいなど意思疎通の障壁でもあります。マスクによって気づかないうちに習慣となっている、口呼吸に注意しましょう。

気になる 認知症ケアチームの話

本館4階病棟 認知症看護認定看護師 竹本 圭輔

第21回 2023年6月14日「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」成立!

2025年には国民の5人に1人が認知症を持つ時代がやってくると言われています。認知症になっても自分らしく希望をもって暮らし続けられる社会を実現するため、国や地方自治体の取り組みを定めた「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が2023年6月14日参議院本会議で可決・成立しました。この法律は、我が国における急速な高齢化の進展に伴い認知症である者（以下「認知症の人」という。）が増加している現状等に鑑み、認知症の予防等を推進しながら、認知症の人が尊厳を保持しつつ社会の一員として尊重される社会の実現を図るため、認知症に関する施策（以下「認知症施策」という。）に関し、基本的理念を定め、国、地方公共団体等の責務を明らかにし、及び認知症施策の推進に関する計画策定について定めるとともに、認知症施策の基本となる事項を定めること等により、認知症施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とすると条文に明記されました。

本法律における基本施策として下の8つが挙げられています。

私たちは、認知症に関する正しい知識を持ち、認知症の予防を図り、認知症の人の自立及び社会参加に協力するよう努める必要があります。認知症の人と現代社会をより良く共に生きるため、私たちが認知症を自分のこととして捉えることが必要です。認知症があっても希望と尊厳ををもって暮らせる社会を実現するべく、皆で支え合う社会を作っていく必要があります。「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の成立をきっかけに、皆さんも認知症について考えてみませんか？

《参考文献》衆議院：認知症基本法
http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_gian.nsf/html/gian/honbun/houan/g19805030.htm

①認知症の人に関する国民の理解の推進等
②認知症の人の生活におけるバリアフリー化推進
③認知症の人の社会参加の機会の確保等
④認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護
⑤保健医療サービスおよび福祉サービスの提供体制の整備等
⑥相談体制の整備等
⑦研究等の推進等
⑧認知症の予防等

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」基本施策

vol.06

「てんかん発作」C. 全般（起始）発作

～全身けいれんだけではない さまざまな症状を示す発作～

小児科 mini Column ミニコラム

今回は「てんかん発作」の主症状の「全般(起始)発作」について解説していきます。

図1 「全般(起始)発作」のイメージ図
てんかんfor school
https://www.tenkanfs.jp/ より引用

福山市民病院
小児科 科長 三谷（みたに） 納（おさむ）

「全般発作」

前々回、総論で述べたように「**全般発作**」は**大脳の両側全体が一気に興奮状態になるもの**です。
しばしば意識などを司る部分も興奮が巻き込まれますので**意識障がいを伴うことが多い**です。

1 「強直発作」、「間代発作」、「強直間代発作」

いわゆる「全身けいれん」の事です。厳密にはこの 3 つに分かれます。「強直発作」は、**口を硬く喰いしばり、手足をピンと突っ張らせて硬直させる発作**です。多くは後に述べる「間代発作」へ移行します。単独で「強直発作」のみを示すケースは比較的稀な部類に入ります。

私たちてんかん専門医が「強直発作」という言葉を使う場合、特殊な症候群などの際に認める難治な発作を指します。（ここではやや専門的なので、お話はしません）

「間代発作」は、**手足をビクンッ・ビクンッ と一定のリズムで曲げ伸ばしする発作**です。

「強直間代発作」は前述の「強直相」に引き続き、「間代相」へ移行するものです。発作が終了すると呼吸が再開しますが、しばらく眠ったり、もうろう状態となったりすることが多く認められます。発作終了後意識が回復した後、嘔気・嘔吐・頭痛などを訴えることも少なくありません。

図2 A.強直発作(強直相) B.間代発作(間代相) C.発作終了時

2 欠神発作、非定型欠神発作（全般起始非運動発作）

欠神発作は幼児期～思春期に多い発作で、**突然表情がなくなりぼんやりした目つき**になる、**動作停止**する、**反応しなくなる**などの**症状**が起こります。時折まぶたをパチパチさせたり、口をモグモグさせる症状が伴います。ごく短い時間（10秒前後～30秒程度）で症状は戻りますが、1日に何度も起こることもあります。

持続時間が短いため周囲に気付かれなかったり、学校などでは注意力がない・集中できないなどと思われていることがあります。

欠神発作は過換気で簡単に誘発されます。欠神発作を疑った場合には、風車（かざぐるま）などをしばらく連続的に吹かしてみてください。

非定型欠神発作は症状は欠神発作同様ですが、難治なてんかん症候群に合併することが多く、ここでは説明を省きます。

図3　欠神発作

3 ミオクロニー発作

ミオクロニー発作は、**手・足・体全体が突然、電気が走ったように瞬間的に「ビクッ」とする症状**が起きます。連続して起こることもあり、**ときに前述の強直間代発作へ移行**します。

朝寝起きから1時間以内に多く出現し、持っているものを落としたり、投げ飛ばしたりすることがあります。**食事中などにはヤケドなどに注意**しないといけません。

思春期以降の方で、強直間代発作を主訴に医療機関受診された方には、実はミオクロニー発作をもっているということはしばしば経験します。上記の症状を発作とは自覚されていないことが多いので、医療従事者は朝に身体・手をビクッとさせることがあるか、初診時に聞き出さないといけません。

図4　ミオクロニー発作

4 脱力発作（失立発作）

脱力発作は筋緊張の急激な低下により、**全身の力が急に抜けてしまう発作**です。発作は一瞬ですが、おしりや膝から下方向に崩れるように倒れることもあるので、**頭部打撲やケガなどに注意**する必要があります。

図5　脱力発作

5 点頭発作（てんかん性スパズム）

乳幼児において、もっとも注意しなければならない発作です。

寝かけや寝起きの際に、1回1秒～数秒程度の頭を前屈させてうなづくような仕草や、手足を折り曲げてお辞儀をするような動作、驚いたように手足に力が入り広げるような動作を主な症状とし、5-10秒間隔で数回～数十回繰り返す（シリーズ形成といいます）発作を点頭発作といいます。

点頭発作を主症状とする「てんかん」を『**点頭てんかん（ウエスト症候群）**』は『**発達性てんかん性脳症**』と呼ばれ、**発作による脳へのダメージが深刻**で、**発症すると次第にあやし笑いしなくなったり、表情が乏しくなったり、首のすわりやおすわりなど、今までできていたことができなくなる（退行）が起きます。後遺症として重篤な発達への影響をもたらしますので早期発見・早期治療介入が重要**となります。当院では投薬で効果が見られない場合にも、ホルモン剤を注射する治療（ACTH療法）なども入院加療で行っています。

図6 点頭発作

いかがでしたか？いつもボリュームたくさんで、広報の方々にはご迷惑をおかけしています。コラムをここまで書いていて、実際にみなさんに伝えるということがいかに難しいことか、ひしひしと実感しております。たまたまこのコラムを見つけていただいた医療従事者の方が、このコラムを利用して患者さんへの説明へ役立ててくだされば、本望です。

次回はどのようにして診察していくのか、どのような検査が必要となるのかをご紹介します。

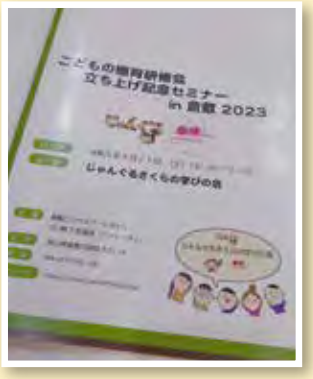
追記

5月25日~27日に岡山市で第65回日本小児神経学会学術集会が開催されました。

移動などに制限がなくなったため私のようにてんかんや発達障がいなど小児神経を専門としている医師が全国から現地参加されていました。私は1、2日目に参加し、ポスター発表を行いました。

27日は私の師である伊予田邦昭先生(福山市こども発達支援センター初代所長)にお声がけいただき、倉敷市で療育施設の職員さん等を中心にレクチャーをさせていただく機会をいただきました。

たくさんの著明な先生と久々にお話できたり、新たな出会いもありかなり刺激をうけました。福山の地から何らかの形で全国のみなさんに貢献できるように頑張っていきたいと思います。



NEWS1

薬剤師外来専用ブースを開設しました。

薬剤科 次長　森光 保武

この度、念願の薬剤師外来専用ブースを開設することになりました。薬剤師外来はまだまだ認知度が低く「薬剤師外来って何？一体何をするの？」と思われる方が多いと思いますので、薬剤師外来について説明させていただきます。

薬剤師外来では外来で始まる経口抗がん薬治療に対する初回説明と開始後のフォローアップ面談を行います。初回説明は薬と患者さんの状況を確認し、開始時の注意点を中心に説明を行います。開始後のフォローアップ面談は医師診察前に血液検査等の待ち時間を利用して、服用後の患者さんの状況確認と副作用対策などの提案を行います。分からないことや困っていることなどがあればご相談ください。少しだけブースは狭めですが、これから業務を充実させ、薬物治療の質の向上に貢献したいと考えています。

NEWS2

退任医師紹介

■救急科 医師　**横山 龍人**

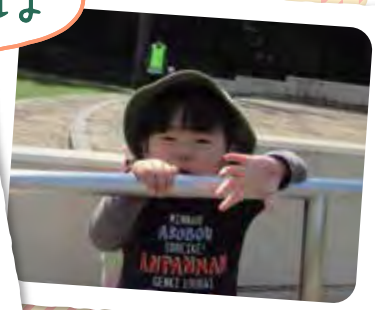
6月30日をもって退任されました。先生の益々のご活躍をお祈りしております。

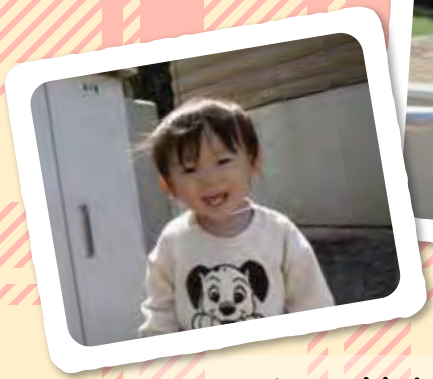
院内保育施設

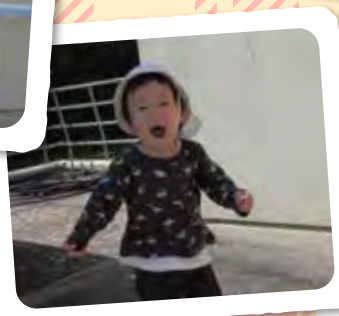
ひまわりから

はるのおさんぽ

今年はタイミングよく、
リハビリ公園の桜が満開でした。







みんなの笑顔も満開♪

タンポポ、み～つけた♪

バス見えた！

みんな、ここから見る
景色が大好きです。

保育園近くの"どんぐりスポット"は、自然いっぱいで
子どもたちも大好きな場所です。
保育士と手を繋いで歩くのも上手になってきました。
みんなで車が来ていないか確認をしながら、
簡単な交通ルールも学べたらと思っています。

がん患者サロン「おしゃべり会」アピアランスケア相談会のご案内

2023年6月より現地での開催を再開しました。

がん患者サロン「おしゃべり会」

患者さん・ご家族が体験したこと、日頃感じる思いや不安・心配な気持ちを同じ立場で語り合う会です。医療スタッフによるミニレクチャーも行っています。

8月以降の
開催予定はこちらから
ご覧ください。

日　時：2023年7月25日（火）
14：00～15：00
内　容：がん情報との向き合い方
場　所：当院西館1階 がん相談支援センター
対象者：がん患者さんおよびご家族
（院外患者参加可）

参加希望の方はがん相談支援センターへご連絡ください。
ＴＥＬ：084-941-5151（代表）

アピアランスケア相談会

がん治療で外見に変化が生じた患者さん・ご家族を対象に、医療用ウィッグやストーマ用品、カバーメイク、補正下着などの展示・相談を行います。がん治療で外見にお困りの方どなたでも参加いただけます。お気軽にお越しください。

日　時：2023年8月17日（木）
14：00～15：00
場　所：当院西館1階 Hall Core（ホール コア）
対象者：がん患者さんおよびご家族
（院外患者参加可）

9月以降の開催予定はこちらからご覧ください。

福山市民病院外来診療担当表

最新の外来診療担当表を掲載しています。
こちらからご覧ください。

管理者室より

当院病院事業管理者 高倉範尚先生からのメッセージをホームページでご覧いただけます。月に1回程度更新しています。ぜひご覧ください。

お知らせ

南玄関及び一部診察室の場所が変わります

本館改築工事のため、南玄関の位置が変わります。
また、眼科、乳腺甲状腺外科の診察室も移動します。

南　　玄　　関：2023年(令和5年)7月31日(月)より位置が変わります。
眼　科　診　察　室：2023年(令和5年)7月22日(土)より移動します。
乳腺甲状腺外科診察室：2023年(令和5年)7月31日(月)より移動します。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

交通のアクセス

●山陽自動車道福山東インターより車で2分
「東城・府中」方面へ進んでください
国道182号線に出られたらすぐ右折レーンにお入りください
（「福山市街」方面からは右折が困難です）

●JR福山駅より
車で15分　バスで20分
福山駅前 2・8番乗場
↓
福山市民病院下車

※広報誌「ばら」に対するご意見をお寄せください。

福山市民病院　〒721-8511　広島県福山市蔵王町5丁目23-1
電話 (084)941-5151　FAX (084)941-5159
ホームページ ●https://www.fc-hosp.jp/
電子メール ●shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。